

I. D. et Building as it will Appear when Completed.

1. 完成時に於ける新議院（模型圖）

工事畫報新年號

THE MOST IMPOSING AND LARGEST BUILDING UNDER CONSTRUCTION IN JAPAN AT THE PRESENT TIME, IS THE NEW HOME OF THE DIET IN TOKYO. THE DESIGN IS A COMBINATION OF AMERICAN AND EUROPEAN ARCHITECTURE AND WILL BE A FAR MORE IMPRESSIVE HOME FOR THE GOVERNING FACTIONS OF JAPAN THAN THE OLD BUILDINGS WHICH WERE RECENTLY DESTROYED BY FIRE. THE NEW STRUCTURE WILL ACCOMODATE BOTH THE HOUSE OF PEERS AND THE HOUSE OF COMMONS AND IS BEING ERECTED AT A COST OF ¥20,000,000.00. IT IS ENTIRELY OF REINFORCED CONCRETE AND WILL BE BOTH EARTHQUAKE AND FIRE-PROOF: THE ACCOMPANING PHOTOGRAPHS ILLUSTRATE THE ARCHITECTURAL DRAWING OF THE COMPLETED STRUCTURE AND THE WORK AS IT NOW STANDS.



Dr. K. Okuma, Director of the Repair and Maintenance Office of the Finance Department.

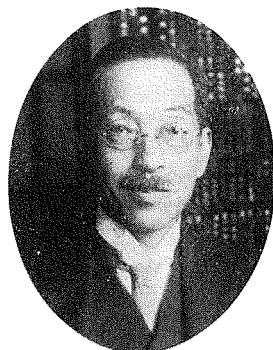
大藏省營繕管財局工務課長
工學博士 大熊喜邦氏

建築中の新議院

大藏省直營工事

工學博士

大熊喜邦



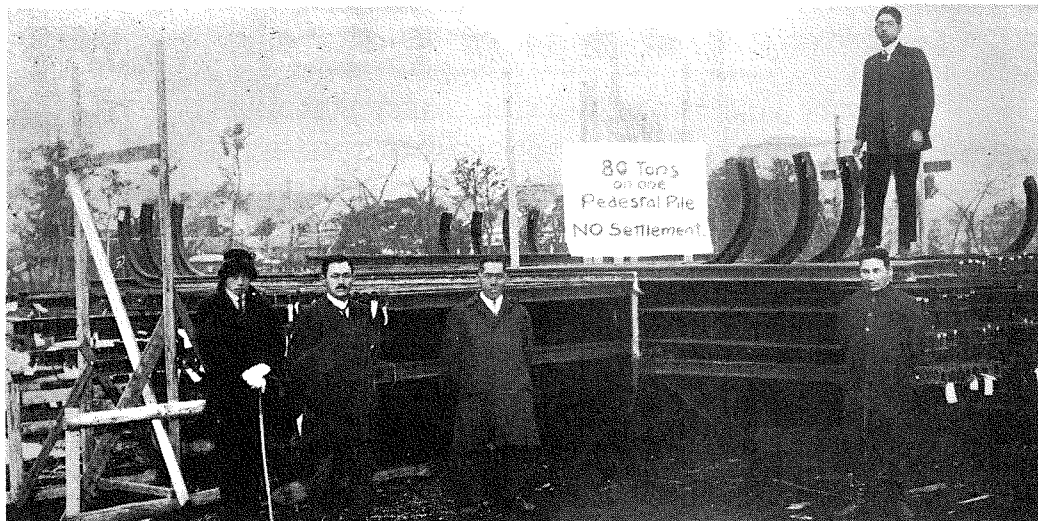
Dr. K. Yabashi, Head of the Repair and Maintenance Office of the Finance Department.

大藏省營繕管財局工務部長
工學博士 矢橋賢吉氏

明治十九年二月、内閣に臨時建築局が置かれ、時の外務大臣伯爵井上馨其の總裁となり始めて議院建築の統轄機關が設けられてより爾來幾多の委員會調査會の消長變遷があり、その設計と様式に關しては建築社會のみならず、世論を喚起し官民俱にやかましい問題ともなつた新議院の建築も、首都永田町臺地頂上に在つて其の骨組たる鐵骨の組立が、今六分五厘通り竣成の工程に達して聳立して居る。

往古の關所地として名高い霞ヶ關の道路を其の南の裏霞ヶ關の道路を西に進んで、丘の頂に登りつめたとき、この二つの道路に挟まれた、東方に低い不正四邊形の土地、それが即ち新議院の建つ敷地である。

新議院の意匠設計は大正七年臨時議院建築局が、萬世不朽に傳はるべき堅固莊嚴なる議院建造のために國內一般の懸賞競技に附し翌八年十月最後の當選設計を得、多少の變更修正を加へ實行圖案を樹て、着手されたものである。



2. ペDESTAL試験杭荷重試験終了
(大正九年十二月)

2. Load Test On one of The Pedestal Piles.
(Dec. 1920)

2

新議院の規模 新議院の本館は、建坪三千七百五十坪、延坪一萬五千坪で、延坪に於て現在假議院の約二倍半に達する建物で正面の長さが約二町、奥行が約一町である。議場の廣さは、貴衆兩院とも各二百十坪で、現在の議場よりも約四割大きく、其の議員席は五百席である。傍聽席は議場周圍の上部殆んど四周に繞らされてゐて、貴族院約千席、衆議院約千餘席を設くる豫定となつてゐる。新聞記者傍聽席は一般傍聽席の前部に別に一列に置かれて貴衆兩院共に百席を設くることになつてゐる、これは世界に例のない好位置を占めて居る。

建物の構造は、ペDESTAL、コンクリート杭打基礎の上に鐵骨を建て、鐵筋コンクリートを以て屋根、床及び壁體を作り、壁の外部に花崗石を装ふもので、其の建築の様式は傳統を離れた近世さし、左右均齊の正面中央に、高さ二百十七尺の高塔を聳立させて、莊

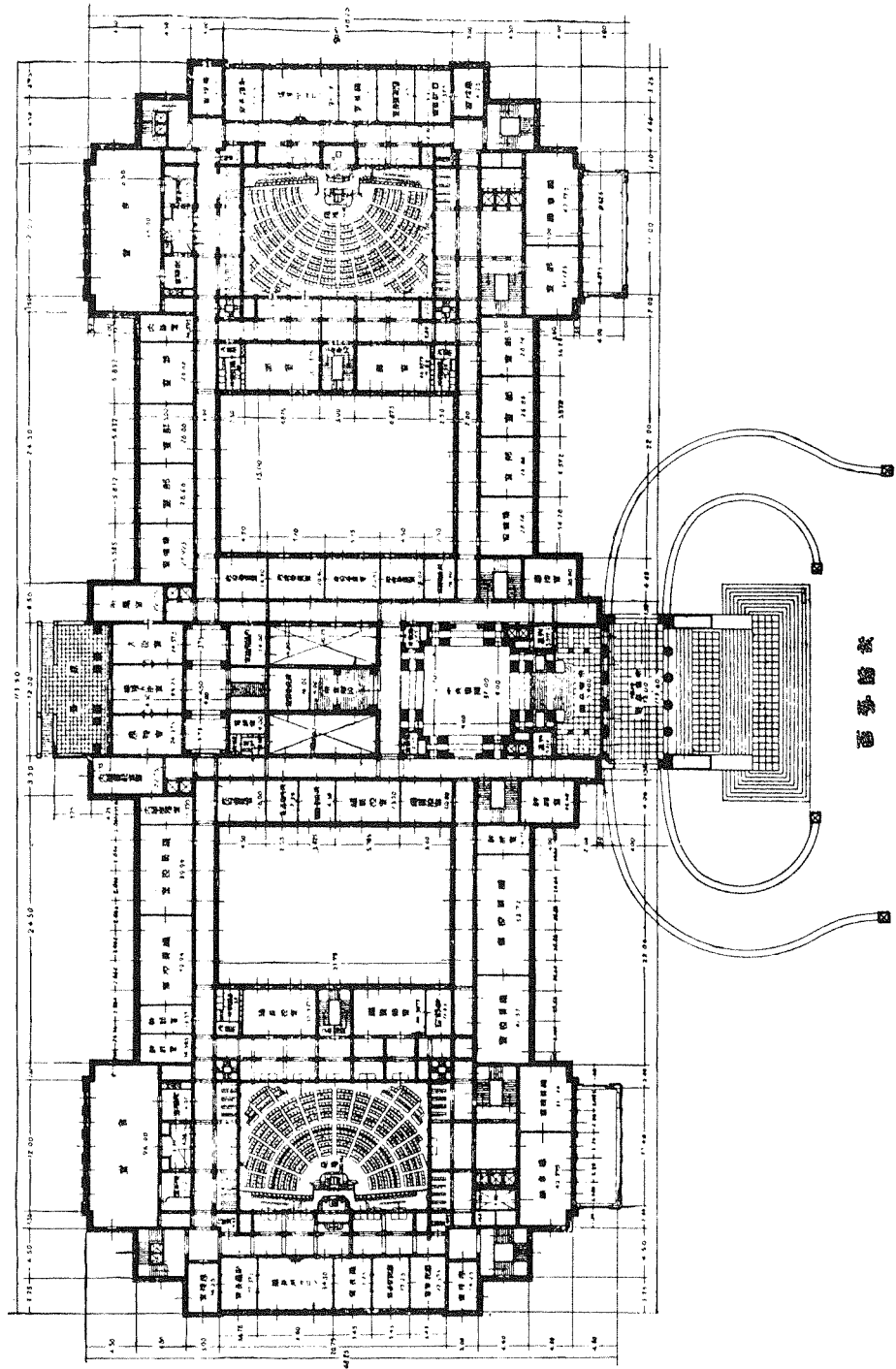
重な外觀を整へたものである。又館内の設備としては暖房換氣設備を初まして電燈電話、昇降機其他諸種の通信機、萬般の機械的設備電氣的設備には何れも最新式の至便なものを完備する計劃である。

新議院建築が落成した曉には、其の議場の廣さに於ては世界最大の議場たるプロイセン下院議場の二百二十二坪、及び米國下院の二百十四坪に次ぎ、建築の形式及び館内諸設備に於ては、歐米各國の議院に比し遙かに新しいものが實現さるゝであらう。

また出來上つた新議院の屋上運動場の上からは、東南に東京灣を越えて房總半島、北に廻つて筑波山、秩父の連山、西は丹澤山塊を越えて富士が見られ、東京市街は大半を展望するこゝが出来る。而して、中央高塔の海拔三百四尺の高さを争ふものは市内にはない。

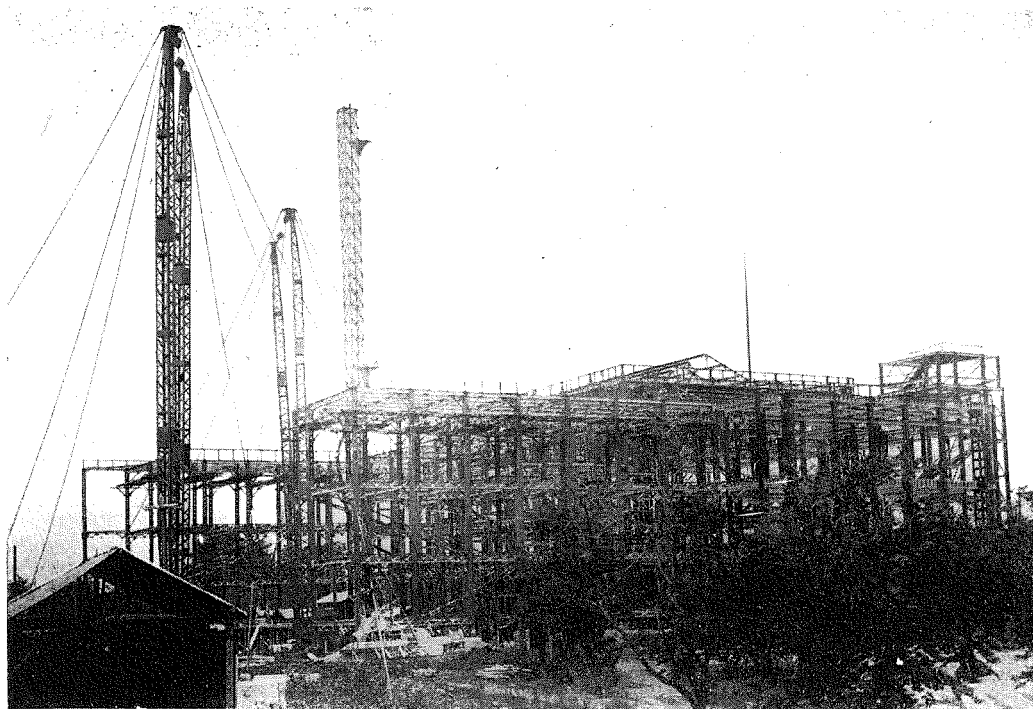
この議院建築に要する總費額は二千萬圓であるが、其の内事務費と附帶工事の經費を除いた議院本館の建築費は一千七百二十一萬五千五百七十八圓である。

圖 院 本 館 取 圖



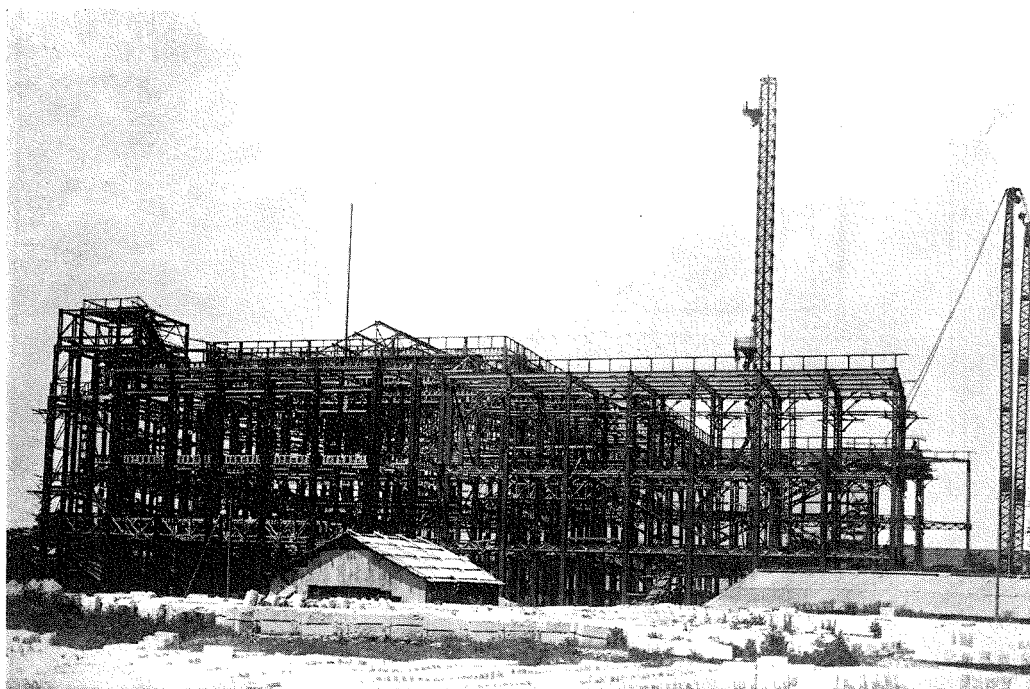
3. Plan of Building.

5. 議院本館取圖



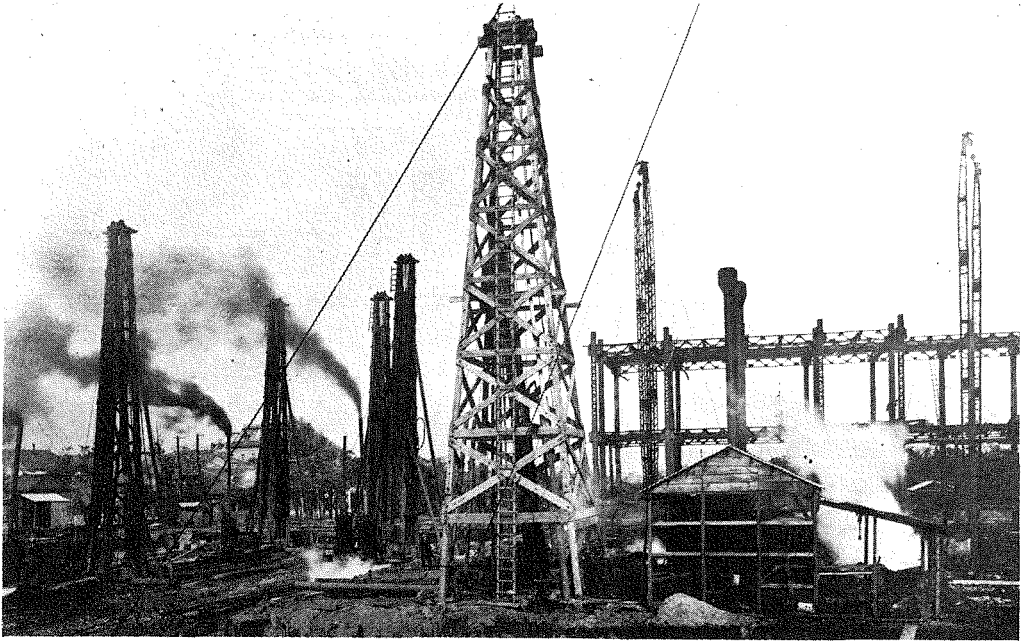
4. 貴族院鐵骨工事最近の狀況

4. Structural Steel Work of The House of Peers.



5. 衆議院鐵骨工事最近の狀況

5. The Same for The House of Commons.



6. 基礎工事及一部鐵骨組立中央は鑿泉工事
(大正十年十月)

6. Foundation Work and Erection of Steel Frame
At Center Well Drilling.

5

建築工事の概況

大正九年一月三十日地鎮祭を行ひ、時の總理大臣原敬氏が先づ玉串を捧げ、貴衆兩院議員國務大臣を初め多數の參列者があつた。次で其年六月二十六日鍬入式があり愈々土工に着手した。

大正九年六月から翌十年六月に亘つて、敷地切取、建物下掘取工事をやつた。土地傾斜の關係に建物に地下室が入用なので深く掘下げ腐朽するここのない「コンクリート」杭を赤土層下の砂利層から築造した。杭は長さ二十七尺乃至三十五尺、太さ直徑十七吋のベデスタル式コンクリート杭で中央の塔下は五百六十八本其の他の部分に三千七百七十七本を打込んだ。上に建つ鐵骨柱の下は厚さ一メートルの鐵筋コンクリートのキャップ即ち礎盤を置き柱を支へる様にしてある。

新議院の構造の主體は鐵骨鐵筋コンクリートで、綱材を以て骨を組立て壁床屋根は鐵筋

コンクリート造とするのである。この鐵骨鐵筋に要する約九千廻の綱材は國産品を使用し、八幡製鐵所に於て專屬の職工を採用して製造してゐる。

この建築工事中特筆すべきは外装用石材である。新議院本館の外壁面は石材を以て表装する事になつてゐるが、この外装石材は建物の外面を保護する使命を持つてゐるから、議院の様な永久的の建物では其の石材も亦十分耐久性に富んで居なくてはならぬ、雨露に對しても磨滅に對しても亦空氣中にある各種の瓦斯の作用に對しても耐久で寒氣にも強くそれ自身の力も強くなくてはならぬ。其の上色彩の關係もあり産出量も亦頗る豊富のものでなければならぬ。これらの條件に適する石材選擇のため全國に詳細な調査が行はれ、山口縣徳山町黒髮島の花崗石が腰部外装用石材とし廣島縣檢島産花崗石が上部外装用として選定された。二種三十一萬切で之が加工には到底従來の手工に委ねては工作が捗らぬため石材加工機十六臺を据付け機械工作により傍ら手工加工を行つてゐる。